

学 位 論 文 要 旨

氏 名 末永 琢也

題 目 都市計画を視点にした初等社会科授業構成論研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

<論文構成>

序 章 研究の目的と方法

第Ⅰ章 初等社会科授業の現状と課題

第Ⅱ章 初等社会科授業に都市計画の視点を取り入れる意義

第Ⅲ章 都市計画を視点にした初等社会科授業における学習内容

第Ⅳ章 都市計画を視点にした初等社会科授業開発

終 章 研究の意義と課題

本研究は、都市計画を視点にした初等社会科授業構成論を明らかにすることである。

社会科は「科学的社会認識形成を通して、市民的資質を育成する教科」である。社会事象や事物を科学的に追究しながら認識を形成することで民主主義を生きていくための市民的な資質を育成することが目的である。Society5.0時代の社会において、社会認識形成に必要な社会事象・事物の変更、社会システムの変化など、学習内容とそれを具現化する教材が変化していくだろう。つまり、これからの社会の変化に対応した新たな初等社会科教育について理論的・実践的研究を発展させていくことが必要である。

そこで、「都市計画（Urban design）」を視点にした。私たちの豊かな生活を支えているのは、都市計画によって構築された社会インフラである。つまり、社会インフラの機能やその施設の働きや役割などを明らかにしていくことで、社会の仕組みや不備や課題が見えてくる。そもそも私たちの社会は、「人工的施設と大地」に支えられている。この人工的施設と大地の統一態をインフラ・ストラクチャー（下部構造）とし、その集合体を「都市」や「地域」と呼んでいる。この下部構造であるインフラを支えとしてスーブラ・ストラクチャー（上部構造）が存在する。スーブラとは、社会や経済、文化や政治等、ありとあらゆる人間活動の所産のことである。そして、下部組織であるインフラが上部組織のスーブラを規定している。つまり、インフラとスーブラの循環によって社会は構成されている。電気、ガス、水道

などのライフラインをはじめ、道路や鉄道、上下水道、ごみ処理施設やシステムなど様々な社会インフラ施設やシステムが国や自治体の都市計画によって構築されている。このインフラが土台となって、社会、経済、政治、言語、文化、文明などが作り上げられている。また、どのようなインフラを構築するかは「政治」プロセスに影響し、政治はスーブラの枢要部である。つまり、インフラがスーブラを規定するものだが、インフラもスーブラによってイノベートされていくという関係性にある。このインフラとスーブラが循環構造を踏まえ、よりよい社会を構築するための未来像を示したものが国土計画や都市計画である。

つまり、都市計画を視点とすることで、インフラとスーブラの循環構造を意識した学習内容の設定とそれを生かした授業が可能となる。さらに、初等社会科授業の枠組みの中で設定されている学習内容の再構成や、新たな学習内容を組み込むことで、インフラとスーブラの循環による社会構造や仕組みを理解し、新たな社会形成への素地を培うことができる。

以上を踏まえ、都市計画の視点を、国や行政が国民・市民が生きていくための土台を構築する「政治的機能」、経済的基盤となる農業・工業・商業などの「産業的機能」、交通や情報（通信）など都市と都市、情報と情報、人と人などをつなぐ「情報的機能」、上下水道やごみ処理などの市民の豊かな生活を構築する「生活基盤的機能」、市民の文化的資本を豊かにする「文化的機能」、病院・保育所などの市民の福祉や医療を担う「福祉・医療的機能」の6つに整理した。そして、実際都市が機能するには、それぞれの機能が相互に関連しているため「相互作用的機能」を付け足して7つに設定した。この7つの視点に合わせて、初等社会科授業を開発した。

最後に、本研究の意義を、①初等社会科授業の現状と課題を明らかにしたこと、②初等社会科授業に都市計画の視点を取り入れたこと、③都市計画を視点とした初等社会科授業における授業方略と授業方法を明らかにしたこと、④都市計画の視点を視点にした初等社会科授業を開発したことの4点に集約した。今後の課題は、①都市計画を視点にした生活科や中等社会科の授業を開発することで都市計画を視点にした社会系教科教育への有効性を明らかにすること、②授業開発を踏まえ、都市計画を視点にした社会系教科教育におけるカリキュラムを開発することの2点である。